

# 食品メーカーにおける食品安全管理規格取得が企業活動に与える影響 に関する研究

—乳業メーカーによる FSSC22000 取得による影響およびその性格を中心に—  
共生基盤学専攻 共生農業資源経済学講座 食料農業市場学  
高田圭介

## 1.問題意識

現在、日本においては食の安全や信頼を脅かす事態が頻発している。グローバル化、フードシステムの大規模化によって食品事故は複雑化し、近年では偽装表示、誤表示問題などの新たな問題も噴出している。そんな中多くの企業では HACCP、ISO22000、FSSC22000 などの食品安全管理を対象とした第三者認証規格を導入し、食品衛生基準の向上と管理の効率化を図ってきている。そのため食品安全規格は現在のフードシステムにとって重要性が増してきている。このような中で食品安全管理と企業の今後の動きについて考える上で、規格取得が個々の企業にとって持つ意味や及ぼす影響に焦点をあてる事は意義のある事だと考える。

## 2.課題

本論文では事例分析を通して食品加工メーカーによる食品安全規格取得の影響を明らかにする事でその性格を考察する事を課題とする。

## 3.研究方法

まず、食品安全規格の基本的な機能と、近年における食品安全規格の発展要因を整理する。その後、本論文で対象とする FSSC22000 の規格体系および特徴を述べたうえで、FSSC22000 を含む食品安全規格の国内における取得動向を整理する。

そしてもっとも食品安全規格の普及が進んでいる乳業業界を事例に事例分析を通じて大手乳業メーカー、中規模乳業メーカーそれぞれの、FSSC22000 取得の目的および経過、食品安全マネジメントシステム構築における特徴を把握し、現時点における FSSC22000 取得の影響および性格を明らかにする事で課題に接近する。

## 4.結論

大手、中規模メーカーの間で規格取得において取引関係の維持という性格を基本として、中規模メーカーにおいては食品安全水準の向上という性格が強く出るという違いが見られた。また大手メーカーは中規模メーカーに比べ、製品単位あたりの費用は少ないとみられる。加えて費用の多い中規模メーカーにおいて FSSC22000 取得費用が製品単位あたりに占める価格は低く、大きなコスト増とはなっていない。そのため 2 社とも企業への負担は大きくないと言える。よって企業により規格取得には性格の差がでるが、その規格取得は企業間の格差を拡大させるものではないと結論付ける事が出来る。